

Donal Keene
キーン トナール
Booklet



ドナルド・キーン

—日本を以て東京都北区—



City of Kita

ドナルド・キーンの 来し方を巡る

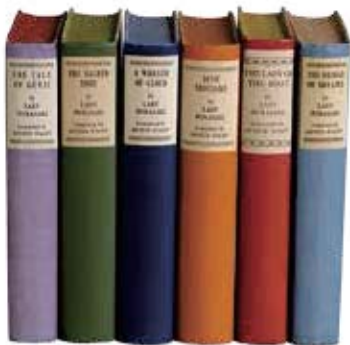
源氏物語

一九四〇年、ニューヨークのタイムズスクエアの本屋で山積み
にされていた『源氏物語』を見かけます。二巻で四十九セント、
買い得のような気がして買い求めました。「やがて私は源氏物
語に心を奪われてしまった。アーサー・ウエーリの翻訳は夢の
ように魅惑的でどこか遠くの世界を鮮やかに描き出していた。
私は読むのをやめることができなくて、時には後戻りして細
部を繰り返し返し堪能した。私は源氏物語の世界と自分のいる
世界を比べていた。(中略) 私は自分を取り巻く世界の嫌な
ものすべてから逃れるために、この本のページを開いたのだっ
た。」

「私と20世紀のクロニクル」所収 角地幸男訳 中央公論社刊

中尊寺

一九四六年、松尾芭蕉の「おくのほそ道」と初めて出会っ
たのはコロンビア大学大学院で学んでいた頃です。以来、松尾
芭蕉は大切な研究のテーマとなりました。「おくのほそ道」の
翻訳を四度も行なう程でした。一九五五年、日本留学の三年
目についに「おくのほそ道」を旅し、平泉の中尊寺を訪れて、「私
は日本にきてからすばらしい仏像に夢中になって、これこそ絶
对的な美だと時々感じたことがある。広隆寺の薬師如来な
どがそうであった、だが、震えるほど美に打たれ、自我を忘
れて、この世でない世界に入ったと感じたのは、中尊寺の内陣
を見た時だけである。」と記しています。



アーサー・ウエーリ英訳 “The Tale of Genji”

出版:Houghton Mifflin Company 1925年
1925年から1933年にかけて出版されたアー
サー・ウエーリ英訳の『源氏物語』6巻本。1940
年にタイムズスクエアで初めて購入した“The
Tale of Genji”2冊本は完訳版ではなく、キ
ーンさんが大切にしているのは、1925年に
Houghton Mifflin Companyから出版された
ものの初版翌年の版。



銀閣寺(慈照寺)

© paylessimages - Fotolia.com 中尊寺



太郎冠者

一九五三年、念願の日本への留学で京都に暮らし始めてしばらくした頃、伝統芸術を学べば日本の文化への理解が深まるのではと狂言を習いました。能にも感銘を受けていましたが、狂言の言葉に惹かれ大藏流の茂山千之丞さんに稽古をつけてもらい、ひたすら先生の声や仕草を真似ることに終始していましたが、代々受け継がれて来た狂言の長い歴史の最後のところに自分が連なっているような気がして、この稽古は最大の楽しみにになりました。そして一九五六年喜多能楽堂で狂言「千鳥」の太郎冠者を演じました。観客席には谷崎潤一郎、川端康成、三島由紀夫等の錚々たる作家の姿がありました。

京都銀閣寺

二〇〇二年、評伝『明治天皇』を書き上げました。二〇〇三年、親友であった嶋中鵬二亡き後、中央公論社社長に就任していた嶋中夫人の「日本のころろ」について書いてほしいとの依頼で『足利義政と銀閣寺』を著しました。「義政は將軍として失格だった。日野富子との結婚生活は不幸せだったし、息子の義尚とは敵対関係にあった。しかし、生涯の最後の十年間は、東山時代の精神を体現する守護神のような存在だった。この時代が日本人に残した文化遺産には、測り知れないものがあることが明らかになっている。たぶん、日本史上、義政以上に「日本のころろ」の形成に影響を与えた人物はいなかったのではないだろうか。」

「日本のころろ」と足利義政「私と20世紀のクロニクル」所収
角地幸男訳 中央公論新社



1953年夏、念願だった日本留学が実現し、京都の土を踏む。今熊野にあった奥村邸の離れ、[無賣主庵]を下宿に定め、日本文化の習得に努めた。下宿から近い智積院で書を習い、能楽堂で見た狂言師の見事な芸に心を奪われ、大藏流宗家の茂山千之丞に狂言を習った。3年後、1956年9月13日、品川・喜多能楽堂で狂言「千鳥」の太郎冠者を演じた。

ドナルド・キーンの功績

日本人に日本の魅力を再認識させた刺激役

日本の古典文学、伝統演劇、さまざまな文化等日本人が目を向けることを忘れてしまったものに注目し、独自の視点と明晰な言葉で、日本人にその素晴らしさを再認識させた。



「越後国柏崎 弘知法印御伝記」東京公演
(浜離宮朝日ホール2010年10月)



鳥越文藏、チャールズ・ダン共編
『古浄瑠璃集 大英博物館本』
出版：古典文庫 1966年

大英博物館蔵の「他力本願記」「太織冠」とともに、鳥越文藏先生が発見した古浄瑠璃「越後国柏崎 弘知法印御伝記」が収載されている。



ドナルド・キーン著
『碧い眼の太郎冠者』
出版：中央公論社 1957年



芥川比呂志の楽屋を訪問



作曲家、武満徹と安部公房

日本文学を世界に知らしめた大恩人

近松門左衛門、兼好法師、松尾芭蕉から永井荷風、三島由紀夫、太宰治、安部公房など古典文学から近代、現代の作家までの数々の作品を日本文学と日本への該博な知識をもとに翻訳し世界に紹介。日本文学の存在を知らしめると共に高い評価を得る力となり、川端康成、大江健三郎のノーベル文学賞受賞にも大きく寄与した。



ドナルド・キーン著
『The Battles of Coxinga:
Chikamatsu's Puppet Play,
Its Background and Importance』
(『国性爺合戦—近松門左衛門の人形
浄瑠璃、その背景と重要性』)
出版：Taylor's Foreign Press 1951年

海外で 日本文学を研究する 後進を育てた教育者

2011年、89歳で退官するまでコロンビア大学で教鞭をとり続け、多くの日本文学研究者を育てた。教えを受けた生徒はアメリカ人ばかりでなく世界に及び、その後の日本文学の世界的な広がり高い評価に大きな影響を与えた。世界で3人目の『源氏物語』英訳者、ロイヤル・タイラー氏も教え子の一人である。



ジョン・T・カーペンター

ロンドン大学で日本美術史を教え、現在はメトロポリタン美術館キュレーター。江戸時代の日本画や版画等を研究。



ロイヤル・タイラー

1936年生、オーストラリア在住。アーサー・ウエイリ、エドワード・サイデンステッカーに続き『源氏物語』完訳。



デイヴィッド・B・ルーリー

コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター所長。1998年から3年間日本留学。コロンビア大学准教授。



エミー・V・ハインリック

元コロンビア大学東アジア図書館館長。日本文学の短歌を研究。詩人としても活躍。東日本大震災被災者の歌を翻訳。



ロイヤル・タイラー英訳
『The Tale of the Heike』
（『平家物語』）
出版：Viking 2012年



1983.07.04 付（百代の過客）朝日新聞社



1986.10.13 付（続 百代の過客）朝日新聞社

日記文学の発見・評価

平安時代から江戸時代までの日本人が書いた日記の研究である『百代の過客日記にみる日本人』で「日記文学の伝統という一筋の糸が、円仁の時代から幕末まで、いや、今日までも、断ち切られることなくつながっている。私が知るかぎり、世界中他のどのような国の文学にも、これと同じ現象を見出すことは不可能である」と誰も着眼しなかった視点でこれら进行评估、日記文学というジャンルを初めて日本文学にうちたてた。



ドナルド・キーン著、金関寿夫訳
『百代の過客 日記にみる日本人』
上・下巻
出版：朝日新聞社 1984年

ドナルド・キーンの旅

① 函館

二〇一二年七月キーンさんは函館へ向かいました。石川啄木に関する執筆のための取材を行いました。こまめに日記をつけていた啄木が明治四十二年の四月から六月までの間だけローマ字で書いた「ローマ字日記」。函館中央図書館にはその手書き原稿の複写があり、本来なかなか見ることが出来ないのですが、キーンさんにご覧になりたいということで特別に見せて下さいました。昼食をはさんで午後は小高い丘の海を見渡せる場所にある啄木のお墓へ。細い坂道をかたり上がり、さらに右の階段を上がったところにあるお墓にキーンさんは花を手向け、一礼されました。あたりは見晴らしの良い場所です。対岸の津軽半島まで見ることができました。



北海道函館市

① 啄木小公園



中尊寺金色堂覆堂前(平泉)



啄木小公園啄木像前(函館)



岩手県西磐井郡

平泉町

② 中尊寺

② 中尊寺での講話

東日本大震災後、日本に永住するために来日したキーンさんは二〇一二年九月十一日、岩手県平泉町の中尊寺で講演。一九五五年留学中に初めて中尊寺金色堂を訪れた時の思い出や世界遺産となった喜びを語りました。会見では、「海外では今までなかった日本人を尊敬する空気が強くなってきている。震災に遭っても相手の心を思いやり秩序ある態度に感銘したためだ」と震災に際しての日本人をたたえる様子を紹介。終戦直後に廃虚の東京を訪れて復興はありえないと思ったが見事に復興をなしとげたように東北でも必ずできると信じていると力強く語られました。

③ イサム・ノグチ 庭園美術館を訪ねて

キーンさんと親交のあった二十世紀を代表する彫刻家イサム・ノグチ。日本人の父とアメリカ人の母との間に生まれ、幼少期は日本で、その後アメリカで暮らし、モニュメント、環境設計、家具や照明の制作等、幅広い活動を行った芸術家です。一九六九年から香川県の手籠町にアトリエと住居を構え、以降二十年余りの間、制作に励みました。死後その遺志を実現し、未来の芸術家や研究者、愛好家のためのインスピレーションの場となるよう造られたのがイサム・ノグチ庭園美術館です。今回はイサム・ノグチが生前、高松のアトリエに来て欲しいとキーンさんに言われたことによく応えることのできた訪問でした。イサム・ノグチの制作のパートナーとして共に作品を創り続け、イサム・ノグチ庭園美術館の理事長である和泉正敏さんの説明を聞きながら素晴らしい作品群と、全体が一つの作品のような園内を隅々までじっくりと鑑賞しました。



お白石持ち綱引き行事参加(伊勢)



イサムノグチ庭園美術館イサム家の居間にて(高松)

④ 伊勢神宮 お白石持ち行事に参加

二〇三年八月、キーンさんは二十年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮「お白石持ち行事」に参加するために伊勢を訪れました。式年遷宮への参加は四回目。最初の参加は六十年前。留学で京都に来たキーンさんが見た松尾芭蕉の「おくのほそ道」で知り、気になっていた式年遷宮のポスター。伝もなまま北野天満宮の宮司に頼み込み参加したのでした。「お白石持ち行事」は、式年遷宮のいろいろな行事のひとつで、新しい御正殿の敷地に敷き詰める「お白石」を奉献するものです。宮川より拾い集めた「お白石」を奉曳車に乗せ、沿道を練り進みます。キーンさんは法被を羽織り参加。神域に入ってから、遷宮後は立ち入ることの出来ない新宮の真新しい御正殿の近くまで進み、持参した「お白石」を奉献しました。その後、十月の「遷御の儀」に二九五三年以来、四回連続参列しました。

東京都北区

③
香川県高松市
イサム・ノグチ庭園美術館

④
三重県伊勢市
伊勢神宮

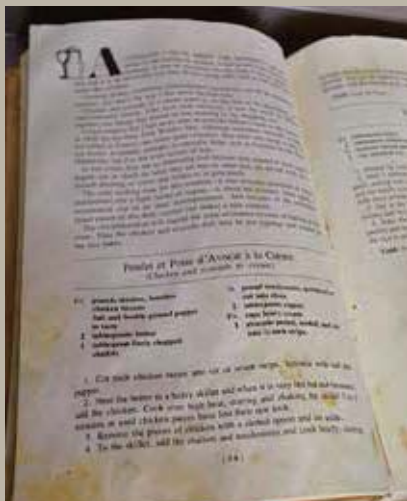
Home cooking

ドナルド・キーンの手料理





キーンさんの自宅のキッチンコンパクトです。流しや電磁調理器がコの字型に配されていて、体の向きを変えながらスムーズに無駄なく調理が進められます。このキッチンの中でキーンさんの料理も迷いなく、手順に無駄なく、進行していきます。決して急いでいるようには見えませんが、短時間で美味しそうな料理が出来上がりました。



キーンさん所蔵の本の中で唯一キッチンで読まれる本とも言える愛用のレシピブック。読み込まれた様子が見てとれます。

研究、執筆、講演等に忙しい日々を過ごすキーンさんは時折キッチンに立ち、料理を作ります。ニューヨーク仕込みのレパートリーの数々、本日のメニューは「アボカドクリームの鶏肉ソテー」です。もちろん買い物もご自分で。霜降銀座商店街まで材料の書かれたメモを手にして買ってきた材料が用意されています。早速調理開始。原稿執筆のためにパソコンに向かってる時とはもちろん違います。その表情には気持ちを集めている様子、そして楽しげな気分がうかがえます。キーンさんの目の届くところに広げられているのは一九六〇年代ニューヨークのレシピブック。かなり使い込まれた感じのする貫禄のある一冊です。いささかの迷いもなく手際良く次々と調理。鶏肉のソテーに

研究、執筆、講演等に忙しい日々を過ごすキーンさんは時折キッチンに立ち、料理を作ります。ニューヨーク仕込みのレパートリーの数々、本日のメニューは「アボカドクリームの鶏肉ソテー」です。もちろん買い物もご自分で。霜降銀座商店街まで材料の書かれたメモを手にして買ってきた材料が用意されています。早速調理開始。原稿執筆のためにパソコンに向かってる時とはもちろん違います。その表情には気持ちを集めている様子、そして楽しげな気分がうかがえます。キーンさんの目の届くところに広げられているのは一九六〇年代ニューヨークのレシピブック。かなり使い込まれた感じのする貫禄のある一冊です。いささかの迷いもなく手際良く次々と調理。鶏肉のソテーに



続いては、マッシュルームやエシャロットをバターでいためてクリームソース作り。休まずに動く手は料理を作り慣れた人の手さばきです。短時間で四人分の料理が出来上がり。お客様たちと共に囲む食卓。皆さんの口からは「うまい」、「おいしい」の声か・・・。おいしいワインと楽しいおしゃべり、皆さん、残すことなく、きれいに召し上がっていました。

地元の方々、 ドナルド・キーンを語る



肉のホンダ 本多 陽一郎さん

震災の後に日本に永住されるという発言をされたのを聞いて、ああ日本を見捨てないでくれていたんだなという安心感を持ちました。その後のキーン先生の会見がズシンと来ましたね。まだ見捨てられてないし、まだ見届けてくれるんだなという感じで、また心に土台を入れてがんばろうという気になりましたね。



●東京都北区西ヶ原

ピアニスト 西村 有紀子さん

先生のことをいつもは誰より謙虚な日本人だと私も思ってるんですけど、演奏会にいらっしやると、音楽を聞くときはすごくリズムに乗って、本当に楽しそうにお聞きになるんですね。そういう波長を感じると、こういうサロンですので、楽しく聞いて下さってるなというのが伝わってきて、演奏家としてもとてもうれしいです。

- 東京都北区西ヶ原
- 旧古河庭園内大谷美術館において年2回サロンコンサートを行っている。



美容院 DäBlü 店長 榎本 武司さん



いつも思うんですけど、先生はエネルギーの固まりみたいなところがあって年齢を感じさせないですね。海外の方に行かれてもまるで近所に行くように、あそこ行って帰ってきましたとお話されるんで、90代の方がこういうふうに乗って隣の町に行くように行って、帰って来ましたということにただただ感動します。

- 東京都北区西ヶ原

キーンさんは
なぜ愛されるのか?

やさしさ
あふれる



買い物で、ちょっとした用事でキーンさんはよく街へ出ます。

声をかけて来るたくさんの人。

街角で「キーン先生」と声がしたら、そこにいるのは、この上なく嬉しそうな顔をした人。

そして、その前にはその人以上の笑顔で応えるキーンさんがいます。

ドナルド・キーンと東京都北区西ヶ原



写真提供：新潮社

よそ四十年にもわたりお住まいになっていまます。ニューヨークと日本を行き来しながらの長い歳月を経て、日本国籍を取得し、日本永住となった今、北区西ヶ原こそキーンさんの心豊かにいきいきと暮らせる、ただひとつの場所となりました。

旧古河庭園の緑に心ひかれて

親友であった中央公論社社長の嶋中鵬二さんに誘われての散歩で案内された旧古河庭園。その緑の美しさに魅せられたキーンさんは近隣に住みたいと直感的に思いました。自宅で仕事をするキーンさんにとってなによりも大切なのは一日の大部分を過ごす部屋からの眺望。旧古河庭園の緑を一目見て決めた住居に以来お



旧古河庭園 日本庭園



旧古河庭園 西洋庭園と日本庭園をあわせ持つ国の名勝指定を受けた庭園。

●旧古河庭園 東京都北区西ヶ原1-27-39 TEL.03-3910-0394



ドナルド・キーンコレクションコーナー 主な資料

著作執筆の参考文献



明治天皇(2001年)

『明治天皇紀』全13巻 宮内庁/編集 吉川弘文館(1968~1977)
『米欧回覧実記』全5巻 久米邦武/編 田中彰/校注
岩波書店(1977.9)



『岩倉使節団』田中彰/著 講談社(1977.10)など



足利義政(2003年)

『群書類従』『続群書類従』(のうち4冊)
『足利義政』河合正治/著 清水書院(1972.6)など



渡辺崋山(2007年)

『渡辺崋山の逆贋作考』月山照基/著 河出書房新社(1996.1)
『崋山探索』杉浦明平/著 河出書房新社(1972.8)
『渡辺崋山研究』小澤耕一/著 日本図書センター(1998.5)など

正岡子規(2012年)

『子規全集』全25巻 講談社(1975~1978)など

日本文学、古典文学に関する資料

『全譯近松傑作集』全3巻

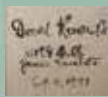
近松門左衛門/著 若月保治/訳編 太陽堂書店(1928.4)
英訳本:井原西鶴『男色大鑑』『日本永代蔵』、上田秋成『雨月物語』、
近松門左衛門『心中天網島』、松尾芭蕉『猿蓑』、
小林一茶『おらが春』『沙石集』『源氏物語』『徒然草』など

著者、献呈者署名入り図書

『House of The Sleeping Beauties and Other Stories』

など川端康成氏/著(1969)(『眠れる美女』の英訳本)

※前見返しに著者の毛筆書き署名



寄贈資料数 図書788冊(和書490冊、洋書298冊)絵画6点、掛け軸1幅(平成25年1月26日現在)

●東京都北区立中央図書館 東京都北区十条台1-2-5 TEL.03-5993-1125

キーン氏の著作の外国語版

英訳本のほかに『百代の過客』のポーランド語版、
『日本人の西洋発見』のロシア語版などもある

交流のあった作家の英訳本

安部公房『カンガルー・ノート』『箱男』『他人の顔』『燃え
つきた地図』『砂の女』『密会』『方舟さくら丸』

大江健三郎『個人的な体験』『芽むしり仔撃ち』『ピンチランナー調書』『万延元年のフットボール』

三島由紀夫『豊饒の海』4部作『黒蜥蜴』『禁色』『愛の渴き』『真夏の死』など



ドナルド・キーン 今日までの歩み



1948年(昭和23年)
ハーバード大学を経て
ケンブリッジ大学に5年間留学、
同大で日本語の講師も務める。

1947年(昭和22年)
コロンビア大学に戻り、
修士号を取得。

1922年(大正11年)
6月18日、ニューヨーク市ブルックリンで
貿易商の家庭に生まれる。



1942年(昭和17年)
米海軍日本語学校に
入学して日本語を完全習得し、太平洋戦線
の地で日本語の解説・通訳を勤める



1938年(昭和13年)



「飛び級」を繰り返し
16歳でコロンビア
大学に入学。

1953年(昭和28年)
京都大学大学院に3年間留学し、
研究の傍ら茂山千之丞に
狂言の指導を受ける。

1954年(昭和29年)
谷崎潤一郎、川端康成、
三島由紀夫らと知り合う。

1950年(昭和35年)
大学教授に就任。

1957年(昭和37年)
NHKに紹介した
狂言の地寛賞受賞。

1960

1950

1940

1930

1920

1919年
小説を構え、
書き出す。



1956年(昭和31年)
13日、品川・喜多能楽堂で
「千鳥」の太郎冠者を演じる。

1955年(昭和30年)
「おくのほそ道」を旅する。



1931年(昭和6年)
父とともにヨーロッパを旅行。
フランスで外国語を話せず、
気落ちする。



1940年(昭和15年)
タイムズスクエアの本屋でアーサー・ウエーリ訳の
"The Tale of Genji" (『源氏物語』)と出会い、
日本文学研究の道へ。

1945年(昭和20年)
終戦後、復員の帰途ではじめて
東京と日光を訪れる。

1951年(昭和26年)
コロンビア大学より博士号授与。

1952年(昭和27年)
ケンブリッジ大学で「日本の文学」を5回連続講義。

2011年(平成23年)
コロンビア大学を退官し、
日本国籍取得を表明。
9月・日本に帰国。
10月・約600冊の書籍を北区に寄贈。

2008年(平成20年)
文化勲章授章。



2006年(平成18年)
東京都名誉都民、
北区名誉区民に選定
される。

1996年(平成8年)
北区アンバサダー就任。

1993年(平成5年)
勲二等旭日重光章受章。
NHK放送文化賞受賞。



1990年(平成2年)
全米文芸評論家賞受賞。
日本学士院客員となる。

1985年(昭和60年)
『百代の過客』により読売
文学賞、日本文学大賞受賞。



1962年
日本文学の海外
功績により菊池

2010

2000

1990

1980

1970

2012年(平成24年)
3月8日・日本国籍取得。



北区飛鳥山博物館にて
「ドナルド・キーン展」開催。

2013年(平成25年)
北区立中央図書館に「ドナルド・キーン コレクションコーナー」開設。
和書490冊、洋書298冊、計788冊。

1997年(平成9年)
『日本文学の歴史』
全18巻完結。
これにより朝日賞
(人文科学)を受賞。

2002年(平成14年)
前年刊行の『明治天皇』により
毎日出版文化賞受賞。
文化功労者に選ばれる。

1986年(昭和61年)
アメリカン・アカデミー会員
(文学部門)に選ばれる。
同年、コロンビア大学に
「ドナルド・キーン日本文化センター」設立。



1974年(昭和49年)
北区・西ヶ原に居
毎年数ヶ月間を

1978年(昭和53年)
ケンブリッジ大学から
文学博士号を授与。

9月
狂言「

ドナルド・キーン

(鬼怒鳴門)

1922年ニューヨーク生まれ。
日本文学研究者、文芸評論家。
コロンビア大学名誉教授。

1940年、アーサー・ウエーリ
訳『源氏物語』に会い、感動
を受ける。コロンビア大学大
学院、ケンブリッジ大学で日本文
学や日本文化の研究を続け、
1953年に京都大学大学院に
留学。帰国後はコロンビア大
学で日本文学と日本語を教え
ながら古典から現代文学まで
の翻訳、さまざまな著作活動
で日本文学の国際的評価を高
めることに貢献。

2008年文化勲章受章。

2012年3月、日本国籍を取得
し日本人となる。



北区では、北区アンバサ
ダーで北区名誉区民の日本
文学研究者ドナルド・キーン
氏が、平成二十四年日本国
籍を取得し、北区に永住す
ることを機に、キーン氏が
長きにわたり北区に暮らし
続けていることを、区の大
切な「資産」と位置付け、
改めてキーン氏と北区のつ
ながりを整理し、「形」とし
て残し、継承していく事業
に取り組んでいます。

平成二十五年、オリジ
ナル資料としての映像と
ブックレットの制作をしま
した。この映像とブックレ
ットで、キーン氏と北区のつ
ながり、キーン氏の功績や
すばらしいお人柄を紹介し
ています。多くの皆様にご
覧いただければ幸いです。

ドナルド・キーン 一日本そして東京都北区一

刊行物登録番号 25-3-043

平成26年3月31日発行(平成26年9月増刷版)

発行:東京都北区政策経営部広報課 東京都北区王子本町一丁目15番22号 電話:(03)3908-1111